

周防大島中学校 研修通信

vol.12

授業の基本に立ち戻る②

「授業の基本に立ち戻る」の第2回は、授業UDの3つの視点に共通して大切な板書について記していきたいと思います。私は、自分自身を振り返ると、板書があまり得意ではありません。小学校の先生方の授業を研修会などで拝見すると、文字がとても丁寧で、内容が構造的に整理されていることが多く、「自分も上手に板書ができるようになりたい」と感じるがよくあります。しかし、教職を専門に大学で学んだわけではない私にとって、板書法を体系的に学んだ経験はなく、現状では見よう見まねで学ぶしかありません。板書は、生徒が一目見て学習の流れや思考の過程を振り返ることができるものが望ましいとされています。学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」には「道徳科に生かす指導方法の工夫」として、「カ 板書を生かす工夫」という内容が掲載されています。以下の内容が全文です。

道徳科では黒板を生かして話し合いを行うことが多く、板書は児童にとって思考を深める重要な手掛かりとなり、教師の伝えたい内容を示したり、学習の順序や構造を示したりするなど、多様な機能をもっている。板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような 順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることが大切である。また、教師が生徒の考えを取り入れ、生徒と共につくっていくような創造的な板書となるように心掛けることも大切である。

構造的な板書であるとともに生徒の意見を反映し、ともに創る板書。ハードルは高いですが、ぜひ目指してみたいですね。

沼田卓弥先生という板書法に関する著作で有名な小学校の先生(国語)がいらっしゃいます。沼田先生は、一人ひとりを力強い読み手に育てるための論理的思考ツールとしての「立体型板書」を提唱されています。教材の特性を生かし、育てたい論理的思考力を事前に考慮に入れたうえで、授業のながれと学習課題を構想し、板書のプロセスを描き、考えを深めるための補助発問を考えていくというのが「立体型板書」づくりのポイントとのことです。立体型板書の10のバリエーションの図を裏面に載せておきますので、ぜひ参考にしてください。

参考文献

『道徳教育 No785』明治図書 2023年11月号

沼田拓弥『立体型板書でつくる国語の授業 説明文』東洋館出版 2021年



A先生の数学科の授業の板書 色や図が効果的に用いられています。

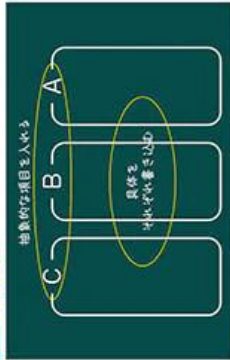
「立体型板書」

— 10のバリエーション —

「立体型板書」は、論理的思考ツールとしての機能を重視した構造的な板書のことを指します。「立体型板書」は、「比較・分類」「関連付け」「類推」の3つの論理的思考力を引き出し、子どもの「思考プロセス」の可視化を重視しています。

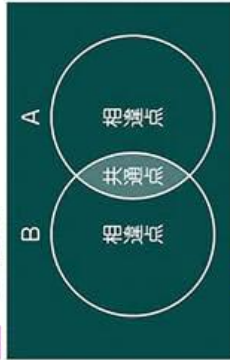
ここでは、基本となる10のバリエーションを確認しておきましょう。

1 類別型



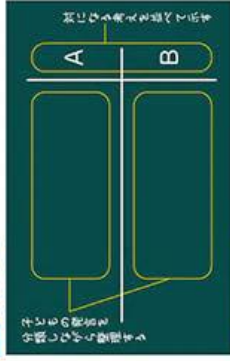
⇒ 関連付け
「具体⇄抽象」の関係を考えてみる力を育てる

3 ペン図型



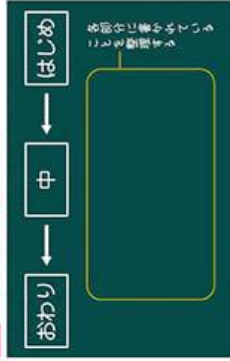
⇒ 関連付け
相連点だけでなく共通点も見つける力を育てる

2 対比型



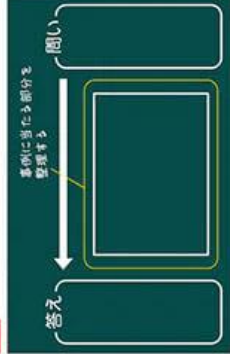
⇒ 比較・分類
情報を比べた上で、関連付けて考える力を育てる

4 構造埋め込み型



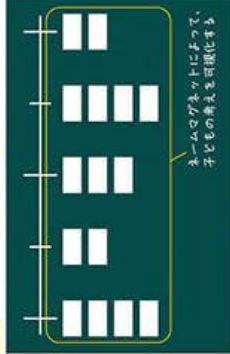
⇒ 関連付け
学習内容と構造を結び付けながら考える力を育てる

5 問答・変容型



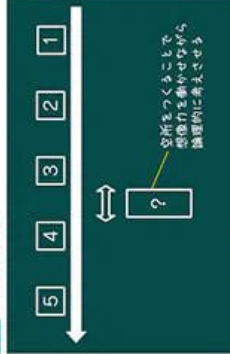
⇒ 関連付け
文章の最初と最後のポイントを押しさえて、論理的に文章を読む力を育てる

7 スケーリング型



⇒ 関連付け
多様な解釈における共通性を見つける力を育てる

9 穴埋め型



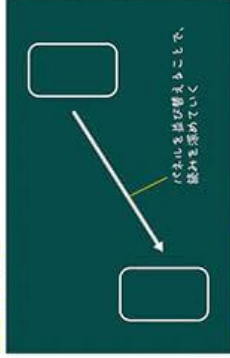
⇒ 類推
書かれていないことを類推させ、論理的に考える力を育てる

6 人物相関図型



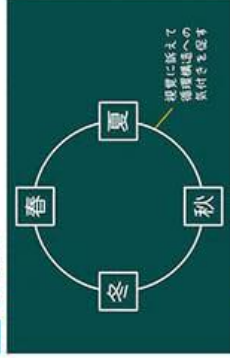
⇒ 関連付け
人物のつながりを可視化し、文章全体をおおまかに捉える力を育てる

8 移動型



⇒ 関連付け
新たな視点で物事を見つめ、事柄を関連付けて考える力を育てる

10 循環型



⇒ 類推
物事のつながりを発見することで、類推しながら考える力を育てる